

【北上山地海岸地域が最適！？】2012年9月高橋正樹日大教授と吉田英一名古屋大院教授は日本地質学会発表論文「地質環境長期安定性と第四紀後期 日本列島の超長期地殻安定性の提案」の結語において「超長期安定性の高い地域D、とりわけ 北上山地および阿武隈高原の中北部海岸地域等は、変動帯である日本列島の中でも地層処分候補地としての適地と考えられる」と報告しています。

高橋教授（地質学）は2012年NUMO技術開発評価会議委員に就任。吉田教授は1986年～2000年動力炉・核燃料開発事業団および核燃料サイクル開発機構（現JAEA日本原子力研究開発機構）に勤務、日本地質学会「地質環境の長期安定研究委員会」委員長、2013年総合資源エネルギー調査会放射性廃棄物WG委員、地層処分技術WG委員兼務をしています。両者は経産省、NUMOの審議会委員であり、その論文内容は重みがあります。諸事情から岩手の三陸沿岸地帯が全国で最有力な最終処分科学的有望地として狙われています。

〔*紫文字：増田前知事関連〕

高レベル廃棄物（ガラス固化体）地層処分を巡る岩手の動き

- * 1986.5 日鉱探開(株)は動燃の要請により高レベル廃棄物地層処分適地選定のため北上山地を調査報告¹⁾
- * 1988～1998.3 釜石鉱山(株)原位置試験（割れ目・水理・地球科学特性、人工バリアなど）
- * 1995 岩手県知事増田寛也氏当選 → 2007年4月四選不出馬 「第二次取りまとめ」
- 1999 核燃料サイクル機構「わが国における高レベル放射性廃棄物地層処分の技術的信頼性」報告
- 2000.6 「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」が施行
- 〃 .10 原子力発電整備機構（NUMO）が設立 2002全国市町村を対象に調査地区を公募
平成40年代（2028年代）後半の処分場操業開始を目標（交付金年5億円～10億円）
- * 2006.3.8 六ヶ所再処理工場アクティブ試験(実際の使用済み燃料を使用)岩手県 15 沿岸市町村長が
日本原燃に本県沿岸の複数会場で説明会の開催を求める
- * 〃 .3.28 日本原燃ア試験につき久慈市・宮古市で漁業者と首長対象説明会、26日に開催通知増田知事
- * 〃 .3.31 六ヶ所再処理工場アクティブ試験開始 (2005年度操業：1日で前年度より420億円の売上増?)
- 2007.1 高知県東洋町田嶋町長文献調査に応募発覚し辞任 出直し選挙沢山新町長同年4月応募撤回
- * 〃 .8.27 第1次安倍改造内閣で増田氏総務大臣・地方分権担当・郵政民営化・地方格差是正担当就任
→2008年9月24日総務大臣退任→2009年東大客員教授、野村総研顧問、2011年5月日本創成会議座長
- 2008.9.8 「地層処分事業と地域振興プランについて」韓国で放射性廃棄物と陽子加速器一体事業建設²⁾
- * 2010.11.30 増田氏内閣府原子力委員会 新大綱策定会議構成員
- * 〃 .12.17 高レベル放射性廃棄物処分シンポジウム（東京：日本科学未来館）において
講師増田寛也前知事：首長の権力行使は理屈としては可能 立地自治体へ引き換え振興策
パネラー中国新聞宮田俊範経済部長：処分場受け入れメリットとして金ではなく ILC 等はどうか
- 2011.3.11 東日本津波大震災 福島第一原発事故 5月増田氏日本創成会議設立座長へ就任
- * 〃 .8 岩手県東日本大震災津波復興基本計画参考資料に ILC 誘致（未臨界炉、放射性廃棄物処理研究）
- * 2012.4.25 ILC について達増知事へ質問・要望書提出→5.22 文書回答「終了後最終処分場に転用しない」
- 〃 8.14 増田寛也氏「日本創成会議が ILC 誘致を提案、・・加速器を使った半減期短縮」読売論点⁵⁾で
- 〃 .9.11 日本学術会議「高レベル放射性廃棄物の処分について」原子力委員会へ回答
- * 〃 .9.17 日本地質学会で日大高橋正樹教授は最終処分場用として地層が安定している3地域として
北上山地海岸地域、阿武隈高原北部海岸地域、根釧海岸地域を挙げる
- * 2013.5.28 経産省総合資源エネルギー調査会・・放射性廃棄物小委員会増田寛也委員長就任
- * 〃 .5.29 岩手日報広告「ILCを次世代へ世界遺産の地で」増田前知事平泉講演会報告、核変換処理
- * 2014.1.28 自民党資源エネルギー戦略調査会で日大高橋正樹教授は東北地方の太平洋側の一部が適地
- 〃 .4 エネルギー基本計画 国が前面に立って最終処分場の取組を進めることが明記
国が科学的根拠に基づいた有望地の提示→重点的な理解活動→複数地に対し、国から申し入れ
将来世代・可逆性（選定プロセス） ・回収可能性（HLW） ・直接処分などの調査研究
- * 2014.10.19 「地層処分を考える」in盛岡 NUMO 主催 4月増田寛也氏東電社外取締役就任
- * 2015.4.9 参議院予算委員会で平野達男議員が最終処分場の技術的信頼性の再検討を政府に要請
- * 〃 4.15 平野達男参議院議員が岩手県知事選に立候補を表明 自公支持・支援
- 〃 .5.22 最終処分場を国が主導で選定する 基本方針を閣議決定
- * 〃 6.5 経産省資源エネルギー庁盛岡市内で県内自治体向け最終処分場・連絡会を開催 非公開
- * 〃 8.7 平野達男氏岩手知事選立候補取り下げ →9.6 現職達増拓也氏無投票当選 アンケート回答
- * 2016.7.31 東京都知事選挙 増田寛也氏（179万票次点）落選
- * 〃 .9.10 地層処分セミナーin盛岡 マリオス会場 NUMO 主催 参加15名
- 2017.4.3 岩手県北上山地がILC（国際リニアコライダー）の建設候補地に決定 ILC戦略会議
- 2017.7.28 政府地層処分場選定「科学的特性マップ」を公表、適地は国土の65%市区町村は1500自治体
- * 〃 .11.16 エネ庁・NUMO主催盛岡最終処分場候補地選定意見交換会、機構理事、学生動員謝罪
- 2018.5.10 最終処分場選定説明会運営見直し大阪で本格再開（昨年12月から中断）参加16名

⇒上記等に係る参考資料は「三陸の海を放射能から守る岩手の会」HPの日付（16.10.10）からpdfで取得できます。

【増田前知事の動き】上表を見ると、地層処分を巡り1995年から岩手県知事を三期勤めた増田寛也前知事の動きが目立っています。増田氏が立候補した東京都知事選前までは高レベル放射性廃棄物の最終処分のあり方進め方を審議する経産省総合資源エネルギー調査会電力・ガス事業分科会原子力小委員会「放射性廃棄物WG」委員長を勤めてきましたが現在は委員として関わっています。